令和8年度版（R8.8.19発行）

ふるさと納税なら、奈良



奈良の文化財を、ともに次の世代へ

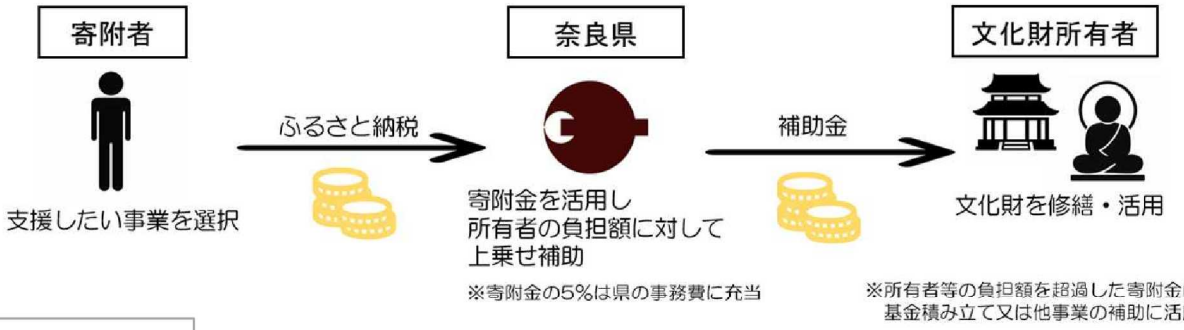
「大和は国のまほろば」と謳われ、奥深い歴史と自然の美しさに包まれ、国のルーツが残る奈良。
その奈良にある数々の文化財は、今日まで長い歴史を刻んでおり、未来へと大切に受け継いでいくべきものです。しかし、文化財の保存活用には多大な資金が必要となります。
文化財の保存活用のために寄せられた寄附金は、保存活用事業の資金として活用されますので、奈良の文化財をともに次の世代へ継承するためのご支援をお願い申し上げます。

奈良のふるさと文化財応援プロジェクト

個人によるふるさと納税

寄附金の流れ

文化財の保存活用等事業において、ふるさと納税による寄附額のうち事務手数料等の額を控除した額を、県が通常の補助に上乗せして補助する制度です。
※奈良のふるさと文化財応援プロジェクトについては、**お礼品はありません。**



寄附の手順

手順①	手順②	手順③	手順④
事業を選ぶ	寄付支援を申し込む	寄付の証明書を受け取る	確定申告をする
事業内容から、支援したい事業を選びます。	お支払い方法などの情報を入力します。	自治体から、寄付の証明書が送付されるので、なくさないよう保管してください。	受け取った寄付の証明書を確定申告時に提出すれば税金が控除されます。※ワンストップ特例制度適用時は確定申告不要

制度について詳しくはこちら

寄附の方法

下記もしくは右QRコードの「さとふるクラウドファンディング」ホームページへアクセスし寄附を行いたい事業の案内ページから寄附を申し込みください。

URL　https://www.satofull.jp/projects/top.php

さとふるクラウドファンディング

案内ページはこちら

令和8年度に行っている事業

建造物　美術工芸
民俗文化財　史跡・名勝

1 重文 宇奈多理座高御魂神社本殿 建造物保存修理事業



国指定

室町時代前期の建立とされる本殿は、前回修理より42年が経過し、屋根檜皮や木部塗装の経年劣化が進んでいたため、保存修理を行っています。令和8年度は修理用覆屋の解体及び土間三和土の補修を行う予定です。

事業期間　R6～R8年度
R8年寄附目標額　100万円

2 重文 博西神社本殿 危険木対策事業



国指定

春日造の社殿が二社並び、左右に連結する形式は数少なく、室町時代末期頃の建物です。微高地を切り開いた土地に建ち、西面及び南面の斜面地の高木群が近接しており、強風時の倒木被害の危険性を抑えるために、危険木を伐採する事業を実施しています。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　44万円

3 重文 吉野神宮本殿ほか25棟 防災施設整備事業



国指定

後醍醐天皇を祀る神社として、明治中期に創建されました。建物を接続してできた複雑な屋根構成により、豊かな社頭景観をつくっています。
令和8年度は、昨年度に引き続き境内全域の防災工事を実施する予定です。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　2,200万円

4 多坐弥志理都比古神社本殿 建造物保存修理事業



県指定

古事記編纂で著名な太安万侶を輩出した多氏ゆかりの神社です。本殿は江戸中期の建立で、現在解体修理を行っています。令和8年度は事業の最終年度であり、単色塗り、素屋根解体、土間復旧、排水溝整備、防災設備復旧を予定しています。

事業期間　R3～R8年度
R8年寄附目標額　4,542万円

5 高良神社本殿 防災施設整備事業



県指定

室町後期の春日造社殿で、令和7年3月に県指定となりました。類例の少ない吹寄垂木や厚板葺であったことが分かる、春日造社殿の展開を示す貴重な遺構です。
指定文化財となったことから、防災設備の設置工事を実施する予定です。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　64万円

6 重文 夜支布山口神社摂社立磐神社本殿 防災施設整備事業



国指定

社殿は延享四年（1747年）に春日大社の第四殿を移したもので、江戸時代中期の春日造の様子をよく伝えています。檜皮葺き屋根を火災から守る為に、自動火災報知設備、消火設備等の防災設備の改修を行います。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　551万円

7 海神社本殿 建造物保存修理事業



県指定

江戸時代前期建立。檜皮の腐朽や塗装の剥落が酷く、保存修理を進めています。修理内容は、屋根檜皮の全面葺替、木部の一部補修、彩色部分を除く塗替です。
令和8年度は、縁などの木部の補修と単色塗り塗装を行う予定です。

事業期間　R6～R9年度
R8年寄附目標額　600万円

8 国宝 金峯山寺二王門 建造物保存修理事業



国指定

「太平記」にみられる吉野郡最古の建造物で、棟高20m近い大きな門です。基礎の沈下が大きく、屋根や木部も傷んでいたため、解体修理を実施しています。令和8年度は木部修繕と組立工事、並行して耐震補強工事、取替えが必要な瓦の製作を進めます。

事業期間　R2～R10年度
R8年寄附目標額　5,402万円

9 天照寺薬師堂 建造物保存修理事業



県指定

天正12年（1584）建立の建物です。小屋組の材料は当初の材がよく残っており、当初から茅葺であったことが分かっています。指定から初の全面屋根葺き替え修理を実施しており、令和8年度は詳細の寸法、仕様、材料等を決定し設計図書を作成予定です。

事業期間　R8～R10年度
R8年寄附目標額　200万円

10 重文 中家住宅主屋 建造物保存修理事業





国指定

中家住宅主屋は、大和棟と呼ばれる茅葺と瓦葺が重なり合う美しい屋根を見せていましたが、令和6年に隣家からの飛び火によって茅葺屋根が焼失するなど大きな被害を受けました。現在、火災前の姿に復旧する工事を行っています。

事業期間　R6～R10年度
R8年寄附目標額　448万円

11 重文 玉置神社社務所及び台所 建造物保存修理事業



国指定

近年、「神様によばれないとたどり着けない神社」として話題になっている玉置神社では、重要文化財玉置神社社務所及び台所の解体修理を行っており、令和８年度は軒廻り、小屋組、軸組の解体を行う予定です。

事業期間　R3～R11年度
R8年寄附目標額　1,300万円

12 龍穴神社本殿 建造物保存修理事業



県指定

渓流にある岩窟は龍神の棲む龍穴として伝わり、本殿は江戸時代の春日若宮神社旧本殿を移築したものです。檜皮葺屋根の腐朽や部材の損傷について、屋根葺替、塗装及び部分修理を行います。令和8年度は木工事、基壇工事、屋根工事の一部を実施予定です。

事業期間　R7～R10年度
R8年寄附目標額　622万円

13 波宝神社本殿 建造物保存修理事業



県指定

当神社は五條市西吉野の銀峯山に鎮座し、寛文12年（1672）建立の春日造社殿2棟を並立した貴重な文化財建造物です。令和8年度は主に素屋根建設を予定しています。それ以降は檜皮屋根葺替、彩色塗装塗替を予定しています。

事業期間　R8～R11年度
R8年寄附目標額　506万円

14 重文 長谷寺本坊大講堂ほか7棟 建造物保存修理事業



国指定

本坊は各建物とも建立後100年が経過し、瓦の破損や雨漏りが生じているため、大規模な屋根葺替及び部分修理を行っています。
令和８年度は、本堂の小屋組補修、大講堂の屋根解体工事、護摩堂の屋根工事を予定しています。

事業期間　R3～R11年度
R8年寄附目標額　1億878万円

15 国宝・重文 室生寺金堂ほか2棟 建造物保存修理事業



平安前期に建立された国宝 金堂及び五重塔、室町時代の重要文化財 御影堂の保存修理事業を進めています。
令和8年度は国宝 五重塔及び金堂の屋根葺替を中心とした修理工事を実施予定です。

事業期間　R7～R10年度
R8年寄附目標額　4,908万円

国指定

16 国宝 興福寺五重塔 建造物保存修理事業



現在、明治時代以来120年ぶりとなる、大規模な保存修理事業を実施しています。約6万点の瓦を丁寧に屋根から降ろし、再用できる瓦と傷んだ瓦を1点1点調査しています。その後は、破損が生じている大斗の修理を行う計画です。

事業期間　R4～R15年度
R8年寄附目標額　1億2,100万円

国指定

17 国宝･重文 法隆寺金堂ほか54棟 建造物防災施設等事業



法隆寺は、現存する世界最古の木造建築群であり、約1400年前の飛鳥時代の姿を今に伝えています。現在、国宝・重要文化財 法隆寺金堂ほか54棟の保存環境を改善するために、13年にわたり、防災施設の全面的な改修事業を実施しています。

事業期間　R6～R18年度
R8年寄附目標額　5,000万円

国指定

18 石上神宮太刀 美術工芸品保存修理事業



「義憲作」の銘がある太刀。義憲は平安時代後期の備前の刀工で、その作品は伊勢神宮に伝来する太刀と本品の2例しか知られていません。今回の修理では刀身の錆を取り除くほか、新たに鎚と白鞘を製作して保存に万全を期します。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　57万円

県指定

19 重文 當麻寺木造阿弥陀如来坐像 美術工芸品保存修理事業



平安時代後期の丈六像です。像本体は修理工房に移送し、漆箔層の剥落止めや構造補強等の処置を進めています。令和8年度末には堂内に再搬入し、現地修理を行った台座・光背とともに組み上げて完成予定です。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　214万円

国指定

20 重文 丹生川上神社木造神像 美術工芸品保存修理事業



平安～鎌倉時代に造られた木造神像が20体まとまって伝存しています。中央殿安置の11体の保存修理が完了し、現在は東西殿に祀られる9体の保存修理を進めています。経年の汚れやカビの除去、虫蝕に対する処置、朽損箇所の材質強化を行う計画です。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　247万円

国指定

21 念佛院絹本著色千手観音二十八部衆像 美術工芸品公開修復事業



千手観音の周囲に二十八部宗と風神・雷神が描かれています。端正な姿の千手観音像に対し眷属像はやや寸詰まりで、鎌倉時代（14世紀）の作品と考えられます。横折れを修正するほか、過去の修理で暗く見にくくなった画面を見やすくします。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　76万円

県指定

22 来迎寺木造阿弥陀如来坐像 美術工芸品公開修復事業



平安後期の穏やかな作風を示す阿弥陀如来像です。全体に漆箔の剥落が進むほか、台座が鼠により傷つけられていました。今回は表面全体の剥落止めのほか、台座の解体修理を行います。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　27万円

県指定

23 重文 春日大社神事日記 美術工芸品保存修理事業



春日大社の神事を中心に、各時代の社会・経済などを、鎌倉時代から明治時代までの長期間にわたって知ることができる史料です。全512点のうち、15点について、クリーニングや欠失部分の補修を進めています。

事業期間　R7～R9年度
R8年寄附目標額　365万円

国指定

24 柳澤家当主年録及び日記類 美術工芸品公開修復事業



大和の大名として知られる郡山藩・柳澤家の歴史を伝える古記録です。現在、全1800冊のうち、特に損傷の激しい10冊の修理を実施しています。虫損部分を補修し、脆弱な部分を補強します。

事業期間　R8～R9年度
R8年寄附目標額　127万円

県指定

25 圓光寺木造僧形坐像(伝乗専像) 美術工芸品公開修復事業

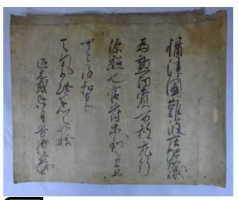


本願寺第3世覚如の高弟であった乗専（1295～1357?）の像として伝わる肖像彫刻です。針葉樹材の寄木造りで、頭部・体部とも箱状に組む構造から室町時代の作と推定されます。今回の修理では、主に落ち込んだ頭部や緩んだ部材の修正を行います。

事業期間　R8～R9年度
R8年寄附目標額　101万円

県指定

26 広橋家文書 美術工芸品公開修復事業



中世以来の由緒を持つ旧家に伝来した、後醍醐天皇等の綸旨を含む古文書です。歴史研究において高い注目を集めてきましたが、状態の悪さから公開の機会に恵まれてきませんでした。現在、虫損や糊剥がれ等の修繕により、美観の回復を進めています。

事業期間　R8～R9年度
R8年寄附目標額　16万円

県指定

27 往馬坐伊古麻都比古神社絹本著色生駒曼荼羅 美術工芸品公開修復事業



往馬大社の景観を俯瞰的に描いた宮曼荼羅です。南都絵所吐田座の重有の作と推定され、室町絵画として注目されます。全体に横折れが入り彩色の剥落が懸念されるため、これ以上損傷が進む前に修理を行います。

事業期間　R8～R9年度
R8年寄附目標額　52万円

県指定

28 法楽寺木造四天王立像 美術工芸品公開修復事業



広葉樹による一木造りの像ですが、構造・作風とも二手に分かれます。割矧ぎ造りの2体は12世紀の作風を示し、内刳りのない2体は更に時代が遡ると考えられます。過去の修理で形状が不適合となった箇所の修正を行うと共に、不安定な構造を修正します。

事業期間　R8～R11年度
R8年寄附目標額　147万円

県指定

29 無形民俗文化財 大和神社ちゃんちゃん祭り 伝承基盤整備事業



県指定

大和神社の氏子域である旧大和郷9町による祭りで、4月1日の御旅所へのお渡りが有名です。祭り継続には、用具の修理・新調が必要です。令和8年度は破損した楽太鼓の新調を予定しています。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　36万円

30 重要無形民俗文化財 當麻寺練供養 伝承基盤整備事業



国指定

中将姫が二十五菩薩に導かれ極楽浄土へ向かう伝説を再現した、1000年以上の歴史を持つ伝統的な野外劇です。
全28装束のうち、過去24領の復元新調を行いました。残る4領等を新調する予定です。

事業期間　R7～R11年度
R8年寄附目標額　51万円

31 史跡 滝寺磨崖仏 整備事業



県指定

8世紀に遡る我が国最古の磨崖仏の一つです。巨大な岩の平坦面に如来像や菩薩像が高さ2m余、幅3m余にわたって彫られています。磨崖仏を保護する木造の覆屋は建設から40年が経ち、土台などに腐朽が見られるため、この覆屋の修理を行います。

事業期間　R8年度
R8年寄附目標額　74万円

32 名勝 依水園 保存・活用事業



国指定

東大寺や奈良公園に隣接しながらも周りから隔絶された静かな日本庭園です。南大門や若草山を借景とした池泉回遊式庭園で、江戸期と明治期という二つの庭を同時に味わえるのも特徴です。
現在、庭園の保存と活用を図るため、建物の修理、園路や樹木の整備を行っています。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　1,408万円

33 名勝 法華寺庭園 保存・活用事業



国指定

奈良時代の総国分尼寺として創建された尼寺です。江戸時代には皇女が入寺し、京都御所からの客殿の移築と庭園の整備により、尼門跡の格式と優しさを示した御所的な雰囲気を感じさせます。
現在、庭園の復旧修理を図るため、建物や塀の修理、植栽の整備を行っています。

事業期間　R1～R10年度
R8年寄附目標額　684万円

34 史跡･名勝 當麻寺中之坊庭園 保存・活用事業



国指定

奈良時代の當麻寺東塔を借景として心字池を中心とした桃山時代の庭園で、大和三名庭の一つにも数えられています。
現在、庭園の保存と活用を図るため、築地塀の復旧や水路の修理、樹木の剪定を行っています。

事業期間　R7～R8年度
R8年寄附目標額　192万円

令和9年度以降に行う事業

35 重文 長岳寺楼門 建造物保存修理事業



国指定

長岳寺楼門は平安時代末期に建立された現存最古級の楼門として知られています。
柿葺屋根の破損が著しく、応急処置として屋根面を鉄板で養生しています。文化財的価値を守りつつ、美しい姿を取り戻すため、屋根葺替等を行う予定です。

事業期間　R9年度（予定）
R8年寄附目標額　750万円

36 手向山神社神楽所 建造物保存修理事業



県指定

手向山八幡宮は東大寺の鎮守社で、現在の社殿は大仏殿復興を祈願するために公慶上人により元禄4年（1691）に造営されたものです。軸部の不陸や傾斜がみられ、土壁の破損が著しく、早急に修理が必要な状況です。事業は令和9年度着手予定です。

事業期間　R9～R12年度（予定）
R8年寄附目標額　1,710万円

37 重文 談山神社末社比叡神社本殿ほか6棟 建造物保存修理事業



国指定

談山神社の伽藍配置は神仏習合の特殊な例として知られており、社殿は江戸前期から中期に造営されたものです。屋根の破損が著しく、軒廻りにまで雨漏りが達しており修理が必要な状況です。事業は令和11年度着手を予定しています。

事業期間　R11～R22年度（予定）
R8年寄附目標額　4,500万円

いただいた寄附の使い道

寄附者が指定する文化財保存活用等事業に対する補助金の財源として活用させていただきます。
また、寄附金の5％は県の事務費等に充当します。
令和8年度寄附目標額を超えて今年度寄附された寄附金については、次年度もしくは他事業に充当させていただく可能性があります。
万が一事業を実施できない事由が生じた場合には、当該寄附の趣旨に沿うような事業に活用させていただきます。

問い合わせ

奈良県 地域創造部 文化財課
〒630-8501　奈良市登大路町30
TEL　0742-27-9864（直通）　FAX　0742-26-5386
Email　bunkaz@office.pref.nara.lg.jp

